

## 平成 30 年度岡山大学学位記授与式 式辞

本日ここに、ご来賓の皆様のご臨席を仰ぎ、平成 30 年度学位記授与式を執り行うことは、卒業生、修了生の皆さんはもとより、本学にとっても、誠に嬉しく喜ばしいかぎりです。学部学生 2,243 名、別科・専攻科生 51 名、大学院修了生 941 名、合わせて 3,235 名の皆さんが、岡山大学を卒業します。おめでとうございます。岡山大学を代表して、心よりお祝いを申し上げます。皆さんは、この岡山の地で、同級生、先輩や後輩、指導をされた先生方、また地域の方々など、多くの人と知り合い、切磋琢磨して本日を迎えられました。長い間皆さんを温かく支えてくださった、ご家族や保護者、関係者の皆様にも、心からお祝いを申し上げたいと思います。

明日から、社会人として、また大学院生として活躍される皆さんに、ぜひ心に留めていただきたいことが 3 つあります。

まず 1 つ目は、皆さんが学ばれたこの『岡山』という土地に受け継がれている「社会課題解決の遺伝子」についてです。江戸時代から現在まで、現存する世界最古の庶民の学校である閑谷学校や、山田方谷による藩財政の再建、石井十次による岡山孤児院、そして大原孫三郎による倉敷労働科学研究所の設立など、様々な社会課題を解決するために、それまでになかった多くのイノベーションが、ここ岡山から生み出されてきました。現在、アントレプレナーシップという言葉で表現されているマインドセットは、決して新しいものではなく、岡山においては次世代に引き継がれる「遺伝子」のようなものであり、本学で学ばれた皆さんの心と体には、知らず知らずしっかりと受け継がれていると思います。

現在、世界は目まぐるしい速さで変化し続けています。政治、経済、テクノロジーなど全ての分野において、昔の 10 年は今の 1 年となり、昨日の『有りえない』は明日の『当たり前』という予測困難な時代が、これからの皆さんの日常になることと思います。この岡山においても、西日本の平成 30 年 7 月豪雨で倉敷市真備町をはじめ、市内においても大きな被害に見舞われました。皆さん方ご自身やご家族にも被災された方々がおられたかと思います。私自身も、この豪雨を契機に災害に対する考え方が一変し、不測の事態に対する備えの重要性を改めて実感しました。

皆さんの中には、このような予測困難で課題山積の時代に本学を巣立っていかれるにあたり、将来に対する不安を感じている方がいるかもしれません。しかし、皆さんの中には既に、どのような状況であっても自分らしく活躍するための「5 つの能力」が備わっています。これが、皆さんにぜひ知っておいていただきたい 2 つ目のことです。皆さん、もう一度本学の理念と目的を思い出してください。本学の理念は、『高度な知の創成と的確な知の継承』、そして本学の目的は『人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築』です。この理念・目的を達

成するために、私たち教員は本学のディプロマポリシーに基づき、様々な教育プログラムを提供し、それらを自律的かつ意欲的に学修された皆さんが、豊かな教養、つながる専門性、活用できる情報力、社会をリードする行動力、そして自己の成長を追究できる自己実現力という「5つの能力」をしっかりと身に付けられるようにデザインをしています。これが、岡山大学が、教育プログラムを通して皆さんに引き継ぐ『課題解決の遺伝子』です。皆さんが、これから何かの課題に直面した時には、ぜひ岡山大学で修得した『課題解決の遺伝子』を思い出し、それを十分に活用していただければと思います。

そして、ぜひ覚えておいていただきたい3つ目のことは、これから岡山大学の卒業生の多くが、周囲から国連 SDGs に関する知識と経験を期待されるであろうことです。これまでも皆さんは、SDGs「Sustainable Development Goals」という言葉をお聞きになったことがあると思います。

私たちが住んでいる「日本」という国は現在、少子高齢化という大きな課題に向き合い、持続可能な国のあり方を本気で考えなければならない状況に置かれています。その一方で、世界の人口は2050年の98億人に向かって増加し続けており、資源や環境などあらゆる面での持続可能性が著しく脅かされつつあることから、このままでは“地球が2つあっても足りない”という大きな危機感を世界全体が認識しています。SDGsは、地球環境と人類社会の持続可能性を追究し、「誰一人取り残さない」未来のあるべき姿を世界共通の目標として、世界中の人々や組織が連携・協働し、多様な社会課題の解決に、これまでに無かった新たな解決方法を創り出していこうという取組です。2015年9月の国連サミットにおいて、その達成目標を17のゴールに分け、全領域において取り組まれる事柄を169のターゲットと定めて、2030年までにそれぞれの目標を達成するように貢献するプロジェクトが採択されました。これを「SDGs」(エスディーゼー)、日本語では「持続可能な開発目標」と呼んでいます。岡山大学では、私が学長に就任した2017年から本格的にSDGs推進研究大学として、目標達成への貢献を本学の重要な事業の1つとしており、本学は国公立として唯一のジャパンSDGsアワード受賞大学です。

皆さんが、在学中、講義や実習などの様々な活動を通じて熱心に学び、取組んでこられた一連の教育プログラムは、ただ単位を取るためだけのものではなく、将来、皆さんが経験したことのない困難な課題に挑戦するに当たり、問いを見出して仮説を考え、その根拠を集め、結果を共有して実践を継続するという、より創造的な解決のための高度な知識と技術を学ぶためでもあったのです。今後どんなに世界の技術革新が進化したとしても、常にそこからまた新たな社会課題が生まれ、私たちはその解決に取り組み続けなければならないでしょう。皆さんがこれまでに本学の卒業生・修了生として身に付けてこられた「5つの能力」と、岡山大学ならではのSDGsアントレプレナーシップという「課題解決の遺伝子」は、必ず皆さんの大きな“強み”になると、私は確信しております。

最後に、「人生 100 年時代」とよく言われますように、皆さんが本学を巣立った後に過ごす時間は大変長く、またその間に起きる変化も非常に大きいと予想されます。将来、皆さんが職場や家庭などで新たな課題を抱えて、それまでの社会で経験したノウハウや、大学で学んだことだけでは、望ましい結果に辿りつかない時があるかもしれません。そのような時には、是非「母校で学び直す」という選択肢があることを忘れないでほしいと思います。今後、社会人におけるリカレント教育の重要性は、ますます高まることが予想されます。本学のアラムナイ、すなわち同窓会や地方支部は、日本各地に存在しているだけでなく、世界中に広がっています。今年、岡山大学創立 70 周年記念行事や毎年開催している全同窓生向けのホームカミングデーなども企画されていますので、ホームページや SNS 等で情報を収集し、気軽に母校の広く緑豊かなキャンパスに戻って英気を養ってください。本日もご臨席下さったご家族、保護者そして関係者の皆様もぜひ一緒に、岡大キャンパスにお出でいただきたいと思います。

卒業生・修了生の皆さん、明日からは社会人あるいは大学院生としての新たな生活が始まります。私たち全教職員は、これからも皆さんが、母校岡山大学で学んだ伝統と精神を胸に、それぞれの新しい職場などで、自信を持ってのびのびと活躍して下さることを心から祈っています。そしていつの日か、成長した皆さんにお会いできる事を楽しみにして、私からはなむけの言葉とさせていただきます。本日はご卒業、誠におめでとうございました。

平成 31 年 3 月 25 日

国立大学法人岡山大学長 槇野博史